

第3回 幼・保・小合同研修会

日時 令和5年7月28日(金) 午後3時～午後4時40分

場所 総合教育支援センター（オンラインとのハイブリッド研修）

教育講演

「特別に配慮を要する子どもへの支援について」

～事例を通して考察する～

郡山女子大学 家政学部 生活科学科

教授 小林 徹 氏



講師の小林先生は東京都の中学校教員として、特別支援学級を25年間担当されました。2022年より郡山女子大学家政学部生活科学科教授として特別支援教育の障がい児保育について講義をされています。また、郡山市教育支援委員会の委員として郡山市の子どもたちの就学について貴重な意見をいただいております。今回は、特別に配慮を要する子どもへの支援について、どのような点に留意し支援をしていけばよいのか、先生の豊富な経験をお聞きしながらご指導いただき実践のヒントを学びました。

※参加者→幼稚園・保育所（園）・認定こども園・

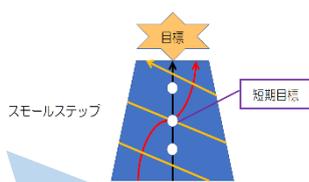
小学校関係者等 84名（内オンライン研修56名）



【講演の主な内容】

- ライフステージを見通す
- 障がいの定義の変遷
- 支援の難しさ・障がい児学級に来る子どもたち 他（事例を通して考察）
- 保護者とどのように関わるか
- 特別な教育的ニーズ
- インクルージョンと合理的配慮
- 生涯発達について

短期目標と手立て



スモールステップは「小さな階段」いきなり目標に到達するわけではないので、ニーズに合った手立てを考えよう。

■ライフステージを見通す

ライフステージを見通した支援とは、子どもたちの「現在」と「将来」の関係をどのように考えるかということと繋がっている。成長は今の積み重ねによって成し得るもので、現在を大事にしなくてはならない。

■特別な教育的ニーズ

幼稚園等においては、日々の園での活動や生活の中で考えられる困難さに対する指導や支援の工夫の意図、手立ての例を具体的に示すことが必要である。

【アンケートから～参加者の声～】

○エピソードを聞いて、何度も涙が溢れそうになったり、ふと笑いがこみ上げたり、その時の様子が想像できました。今まで以上に目の前の子をよく見て、共に考え、その子の「今」が素晴らしい時となるようにサポートできる人間になりたいと思いました。（保育所 保育士）

○「今が楽しくないと明日や将来に希望や夢が持てない」という言葉が印象に残りました。障がいの有無に関わらず将来を見据えて日々関わっていきたいと思います。（認定こども園 教諭）